

## 平成 28 年度 第 3 回地域創生戦略会議 議事要旨

日時：平成 28 年 10 月 25 日 9:30～11:30

出席者：別紙参照

### 【自然増対策について】

委員

- ・それぞれの方向性が、具体的にどのように活かされていくのか、1つの家族のモデルを紹介するなど、見えるようにした方がいい。
- ・自然増対策は様々あるが、若者が安心して子育て出来る働き方を出来るかが、一番重要だと考えている。
- ・若者が就職で東京に転出するのは、全国的な流れでやむを得ない。重要なのは関西圏に勤める人が、兵庫県に住んでもらうことである。そのために、空家のスペースの活用など、住みたい兵庫をいかに作っていくかを考えていかなければならない。その中で、みどり豊かで子育てしやすいイメージが兵庫県の目玉になっていくと考えている。

委員

- ・少子化の主な原因は、昔に比べて晩婚化の進行や結婚しない若者が増えたことによる。
- ・そのため、結婚をして家庭を持つことが基本的な幸せであるというイメージを教育の現場で伝えていくことが必要である。
- ・また、仕事がないと兵庫に人が集ってこないため、いかに兵庫県内で産業を創出していくかを考えていかなければならない。

委員

- ・中小企業への奨学金返還支援制度は効果が期待されるため、経営者団体等との連携で利活用を促すとともに、制度の周知を若者向けの SNS からの発信等を含め、しっかり行っていただきたい。
- ・働く者の意識の把握など、データ収集を行うことは地域創生の今後を考える上でも重要である。

委員

- ・会社の上司が部下に結婚相手を紹介するのも難しい時代であり、その中で、県が進めている出会い支援事業は官の仕組みという点で信頼もあり、非常に有効である。
- ・企業単位で会員になってもらうなど、はばたん会員をいかに増やしていくか、という具体策を考えていく必要がある。

#### 委員

・男女の結婚の課題は、全国的な課題であるため、社会全体で取り組むべきものである。そこに兵庫県が注力し過ぎるよりは、兵庫県が独自で抱えている課題に力を入れるなど、メリハリを付けて取り組むべきである。

#### 委員

・若者の定着には、年代別に、地域愛を醸成するようなアプローチが必要。  
・例えば、地域起こし協力隊に、外から見たその地域の魅力を伝えるようなキャリア教育を小中学生に実施すべき。  
・大学生には、起業家の方と実際に話す機会を設けて多様な生き方に触れてもらうことや、昨今の少子化で、今の若者は甥や姪がおらず子どもを育てる実感がなく晩婚化につながっていると考えられるため、大学の卒業生から育児の苦労やワークライフバランスの話を聞く機会を設け、将来の人生設計を考えてもらうことなどが、考えられる。

#### 座長

・子育てをする若い母親で構成される NPO に、大学のゼミで学生と意見交換をしてもらったことがあるが、学生に働き方の提案や地域での活動の仕方に気づいてもらうことには有効であった。

### 【社会増対策について】

#### 委員

・バブル後の就職氷河期などを経験した親世代の子どもがこれから就職を迎えていくことになる。  
・兵庫県は子育てをするには魅力のある街であるため、首都圏だけでなく、他の地域への情報発信を、見せ方を工夫して行っていただきたい。  
・起業しやすい環境は整ってきており、現に女性や高齢者の起業もよく見かけるが、それが「雇用の創出」までは至っていない。起業後に成長を促すような支援施策を充実させていく必要があると考えている。

#### 委員

・中小企業は依然人材確保が厳しい状態が続いている。一方大学生も、東京での就職を希望する者ばかりではなく、就職後に1~2年で離職する者も多く、その中には地元で就職をしていたら、と後悔している者もいるため、地域で働いている同地域出身の先輩の体験談等を就職活動を迎える大学生に伝えていくべき。

#### 委員

- ・神戸商業高校を対象にした「貿易人神戸」プロジェクトのように、若い時から兵庫県の産業を知ることが、兵庫への定着につながっていくのではないかと考える、
- ・また、起業家支援の項目について、兵庫に来れば何か面白いことができるんじゃないか、というイメージを持ってもらうことが大事。

#### 委員

- ・商店街の経営について、昔は長男は大学で都会に出たとしても、地元に戻って家業を継ぐのが当然であった。しかし、今は大型店の進出等により、経営が厳しくなっていて、親が自信を持って長男に家業を継がせることが出来なくなっており、地域力の低下につながっている。
- ・地域力の低下の対策として、地域愛を教育を通して醸成していく必要があるのではないかと。

#### 委員

- ・方向性1の結婚支援について、町単位だと対象者が限られてくるため、官がするより民がすべきだと考えている。
- ・起業家の支援について、個人単位だけでなく集落単位での起業を支援する仕組みを作ってみてはどうか。
- ・起業の支援は当然重要であるが、継業の支援もこれから考えていく必要がある。
- ・地域と大学の連携支援について、地域が安心して受け入れることができるような中長期的な支援を検討すべき。
- ・地域運営組織の法人化については、支援の強化をするべき。
- ・移住者は田舎だからどこでもいい、というわけではなく、地域を選んでいるため、地域の個性を磨いていく必要がある。
- ・地域の良さを教育の現場で伝えていく取組みに、Iターン移住者に話してもらうのは面白い、と考えている。

#### 委員

- ・地方から都会へ人が供給されている、という視点を持ち、兵庫県全体を底上げするには、神戸・姫路だけでなく、但馬、丹波などでも楽しめる賑わいを作っていくことが重要である。
- ・方向性10の農業について、第1号に認定された但馬牛や神戸牛のように、他府県から憧れられるような兵庫モデルを創出していくべき。

#### 委員

- ・淡路、但馬など地域のブランドを醸成するために、県全体としてより、地域別に施策を打ち出していった方がいいのではないかと。
- ・住民票の移動報告の結果で転出入の減を分析しているが、大学生は住民票を動かしていない者が多く、就職の際に動かす者が多いことも考慮するべきである。

#### 【地域の元気づくり、その他全般について】

#### 委員

- ・地域の元気づくりのためには、地域ブランドの確立が重要である。そのためには情報発信が重要であるが、地域で行う情報発信には限界があり、地域のマスコミと上手く連携して発信していくような仕組みなど出来ないかと。
- ・認知症対策は高齢社会の最大の課題であり、予防だけでなく治療改善にも力を入れるべき。
- ・森の幼稚園のような自然の中の子育ての認可の問題や公営住宅の入居要件の弾力化のような規制緩和が地域元気づくりの鍵になってくると考えている。

#### 委員

- ・神戸大学では地域就職の目標を12%から20%に引き上げるなど、大学の意識も変わってきている。教授と個別の連携だけでなく、大学全体と連携して地域おこしを進めて行くべきである。

#### 委員

- ・空き家支援や、女性の就業についてのアイデアを持っている企業もあるため、官だけではなく、民間企業のアイデア借り、コラボをすることが必要となってくるのではないかと。

#### 委員

- ・地域ブランドの関係で、東京浅草の「まるごとにつぼん」の全国から出店した20ブースの中で、洲本市のたまねぎスープが1位、たこ釜飯の素が3位となった。このように地域ブランドを作っていくことが重要であり、例えば淡路のたまねぎ関連の商品を一同に集めて催し物をするなど、ブランド推進委員会のようなものを作って取組みを進めて行く必要があると考える。

#### 委員

- ・方向性2について、ホワイト企業へのインセンティブを与える、という方向は良い。
- ・方向性11について、障害者雇用は企業にとって難しい課題であるが、社会的包括という意味でも、県としてもしっかりと法定雇用率達成に向けて取り組むべき。

#### 委員

・各地域のブランドを見たときに、例えば長野県は圧倒的な自然、石川県は金沢の武家屋敷、温泉、一方兵庫県は何でもある、ということになる。全体を総花的に見せるより、1つ1つにフォーカスを当てて、ブランド化をしていく必要がある。

#### 委員

・情報発信について、昔は中央の情報を地方で流すのが主流だったが、最近は地方の情報を全国で発信していくことが多い。

・県内定着については、東京と同じ土俵で勝負をするのではなく、東京に無くて地方にあるものに着目をするべきである。それは「農業」であるが、兵庫県で農業が出来るイメージはあまり強くない。もっと兵庫で農業をしながら、神戸に遊びに行くような暮らしを発信していくべき。

#### 委員

・自分で農地を所有して経営する人はなかなか増えないが、雇用されて農業に従事する人は増えてきている。

・都市農業の推進については、兵庫県は他府県に先駆けて地域計画づくりを進めている。都市版認定農業者の創設など、兵庫モデルと言えるものも検討して頂き、情報発信を3大都市圏にかかわらず他市町にも進めてほしい。

#### 委員

・これまでは男性が作ってきた社会であり、今は女性、若者の発想を取り入れていくことが求められている。

・教育の中で地域の良さを伝えていくことが重要である。

#### 委員

・中小企業のIoT対応について、相談だけでは不十分である。IoTを活用して中小企業がそれぞれ持つ得意な領域を結びつけて、競争力ある製品を作るようなプロジェクトを展開していくなど、具体的に考えていく必要がある。

#### 委員

・兵庫県は地域のアイデンティティが強く、それを兵庫の魅力として発信していくべき。

・家族の存在が資源になっている世帯と逆に高齢者の介護の問題などで負担になっている世帯が出てきており、家族の格差が大きくなっている。

・高齢者の介護の負担が子育ての活力を削ってしまっているケースも多い。子育ては家族でするものという考えが、介護の問題と重なって逆に負担となり、子どもを持つことをた

めらわせてしまっているケースもあるため、高齢者の介護の問題を県の取組みとして行っていく必要がある。

#### 委員

- ・観光に来てもらうのが一番の情報発信である。外国人だけでなく日本人観光客誘致にもより注力すべき。
- ・外国人労働者の受け入れも検討していく必要がある。

#### 委員

- ・兵庫県の企業同士を結び付けるような施策を打ち出し、活性化をすすめるべき。
- ・リーサスを活用して施策を考えるべき。
- ・介護の負担は女性のが実質多く、ここを解消していけば、女性の就業にも結びつき、結婚についての考え方も変わってくるのではないかと。一連の施策として考えるべき。

#### 総括コメント

##### 副知事

- ・小中高大の階層に必要とされている教育がある。地域の人、外から移住してきた人、子育てをしている人など色々な人の話を聞くような体験教育は重要である。この領域はまだ出来ることがあるため、大学、教育委員会と連携をしながら仕組みとして作っていく必要がある。
- ・地域間競争で選ばれるためのポイントをどう作っていくかが重要。兵庫ひとづくりではなく、それぞれの地域の特性に焦点を当てた制度仕組みの組み方の話もあった。
- ・集落単位の起業、継業については県としても心配りが出来ていなかった分野である。
- ・情報発信の仕方について、東京で発信していく、ネットで発信をしていく、また既存のマスコミであっても地方から全国に発信する際のネタ出しの仕方等、色々検討していかなければならない。
- ・本日いただいた、自然増、社会増、地域の元気づくりの意見を踏まえて、来年度の新規施策について、効果が上がるようなものにしていきたい。